

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号830

発生場所	検査室・処置室	精神・意識障害の有無	リスク C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク
発生場所（その他） -		無	
関連したもの	モニター	発生内容の分類 衝突・接触	

発生内容

生理検査室待合のモニターで患者が頭部打撲した

概要

生理検査待合のモニターは2台が縦方向に並んで設置されている（順番や、採血室の混雑状況がわかるようになっている）。下のモニターの設置位置が低いため、モニターの角に緩衝用のクッション素材のものを貼付。モニターの下には人が入れないように観葉植物などを配置していた。しかし、観葉植物などが後ろに退けられており、ストレッチャーや車いすが入るスペースができていた。車椅子でモニター下に座っていた患者が立ち上がろうとしたときにモニターで頭部を打撲。抗凝固剤を内服していたが、診察にて経過観察となった。

要因

待合は、モニターが縦に並んで2台設置されていた。モニター下の観葉植物など設置しているが、掃除などで観葉植物の位置が少しずつずれていた。待合は、モニターが縦に並んで2台設置されていた。生理検査室前には、ベッドやストレッチャーなどが数台一緒になると待合スペースが少ない。モニター下のスペースを利用し、ベッドやストレッチャーの患者の待機場所となることがある。

対策

会計係に状況報告し、モニター配置場所の再検討を依頼。モニターには、クッション材の貼付を継続。モニター下には、観葉植物の配置し、生体検査受付の方が位置を確認している。

参照